

研究計画書

ゼミ名	春日ゼミⅡ	チーム名	春日 B
タイトル	鉄道		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	二村健太郎、山本大貴、平田真太郎、川嶋航、井上若葉、筒井雅也、河合佑亮、木村元樹、西谷雄貴		
研究計画内容	<p>少子高齢化が進んでいる現代、より多くの人を乗せれば乗せるほど利益が得られる鉄道会社にとって大きな逆風が吹いています。実際に地方の鉄道会社は利用客の減少、またそれに伴い維持コストが増加していくため相次いで廃線しています。</p> <p>しかし阪急・阪神、京阪、東京メトロといった大手私鉄会社、あるいはJRなどの大手民営事業者は今でも黒字経営です。少子高齢化による利用客の減少という同じ状況下におかれながら依然として黒字経営をつづけることができる大手鉄道事業者、赤字が続く廃線が相次いでいる地方鉄道会社、いったいどこで明暗が分かれたのでしょうか。</p> <p>私たちはこの逆風の中でも黒字経営を維持している大手民営事業者の経営戦略に着目しました。</p> <p>【おもな例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百貨店などの駅周辺の商業施設 ・ショッピングセンターの経営による流通事業 ・駅構内の一等地を他の企業に貸し出すことで利益を得る駅ナカ事業 ・駅周辺のビルなどを利用した不動産賃貸事業 ・沿線周辺を宅地開発等による不動産販売事業 ・駅直結や駅近接のホテルの経営 ・観光列車の運行や、テーマパークの経営による観光事業 <p>上記に挙げた例が大手私鉄や大手民営事業者が黒字経営を続けることを可能としている戦略です。どの鉄道会社にも共通しているのが運送業ではなく駅周辺などの施設を利用したビジネスで、現在はこれらのビジネスが大手鉄道会社の基盤となりつつあります。</p> <p>私たちはこの中で有望な事業は何かを調べていき、将来の経営に関して提言を行っていきたいです。</p>		